

「いろいろな ふね」

I 単元の目標と評価規準

目標：文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
① 共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。	① 「読むこと」において、事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。 ② 「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。	① すすんで文章の中の重要な語や文を考えて文章を読み、学習の見通しをもって、読んで分かったことをまとめようとしている。

2 教材について

おわり	中												はじめ
結論	事例④（消防艇）			事例③（漁船）			事例②（フェリーボート）			事例①（客船）			話題提示
	働き	造り	役目	働き	造り	役目	働き	造り	役目	働き	造り	役目	
⑭	⑬	⑫	⑪	⑩	⑨	⑧	⑦	⑥	⑤	④	③	②	①
いろいろなふねが、それぞれのやく目にあうようにつくられています。	火じがあると、水やくすりをかけて、火をけします。 	このふねは、ポンプやホースをつんでいます。	しょうぼうていは、ふねの火いをけすためのふねです。 	ぎよせんは、さかなをとるためのふねです。	このふねは、さかなのおれを見つけるきかいや、あみをつんでいます。 	ぎよせんは、さかなをとるためのふねです。	人は、車をふねに入れてから、きやくしつで休みます。 	このふねの中には、きやくしつや車をとめておくところがあります。	フェリーボートは、たくさんの人とじどう車をいっしょにはこぶためのふねです。	人は、きやくしつで休んだり、しよくどうでしよくじをしたりします。	このふねの中には、きやくしつやしよくどうがあります。 	きやくせんは、たくさんひとをはこぶためのふねです。	ふねには、いろいろなものがあります。

本教材は、4つの船を事例に挙げて、船の造りと働きの関係について書かれている説明文である。どの事例も同じ順序で説明されており、児童にとって読みやすく学びやすい教材である。

3 単元の指導計画(全7時間)

次	時間	学習目標	学習活動
第一次	1	・教材文や課題に興味をもち、本文を音読することができる。	○写真クイズをする。 ○写真クイズや、本単元の題名当てクイズをする。 ○教材文を音読する。 ○本時の学習を振り返る。
第二次	2	・教材文全体を読み、船がどのように紹介されているかを知る。	○本文を一人で黙読する。 ○形式段落に番号をうつ。 ○4つの例の紹介文の構成を知る。
	3	・客船の役目と造り、働きを考えながら、表にまとめ、伝え合う。	○本時のめあてを知る。 ○客船の役目と造り、働きを表にまとめる。 ○まとめたことを友達と伝え合う。
	4 2組 本時	・フェリーボートの役目と造り、働きを考えながら、表にまとめ、伝え合う。	○本時のめあてを知る。 ○フェリーボートの役目と造り、働きを表にまとめる。 ○まとめたことを友達と伝え合う。
	5 1組 本時	・漁船の役目と造り、働きを考え、一人で表にまとめ伝え合う。	○本時のめあてを知る。 ○漁船の役目と造り、働きを表にまとめる。 ○まとめたことを友達と伝え合う。
	6	・既習事項を生かし、消防艇についてまとめ、伝え合う。	○本時のめあてを知る。 ○消防艇の役目と造り、働きを表にまとめる。 ○まとめたことを友達と伝え合う。
第三次	7	・学習した船の中から一つを選び、紹介カードを作る。	○本時のめあてを知る。 ○好きな船について話し合う。 ○船のカードを作り、友達や家族に話すための準備をする。

4 全力参加のための手立て

ダウト読み

キーワードを意図的に変え、間違い探しの感覚で文章に入り込ませる。

→学びに向かう人間性

並び替え

センテンスカードの並び替えて内容理解と構造理解につなげる。

→内容・構造理解

5 本時の展開(全7時間中の第4時)2組

本時の目標:フェリーボートの「役目」と「造り」を考えながら、文章を読み伝えることができる。

時間	学習活動	・指導上の工夫 ▲個別の支援	評価規準 (評価方法)
導入 5分	1 教科書の挿絵の半分の写真から本時で学習する船を知る。 C:何だろう C:トラックみたい。見せて! C:あっ、フェリーボートだ!	・前時の客船と比べ、“車”も一緒に乗船することを意識させるために、車の部分から見せる。	
	フェリーボートは どんなことが できるふねなのか つたえよう!		
展開I 15分	2 フェリーボートの部分の音読をする。 T:フェリーボートは車だけを載せるための船なんだね。 C:車だけじゃなくて、たくさんの人も運ぶって書かれているよ。 3 センテンスカードのダウト読みをする。 T:本文と同じカードがあるので、読んでください。 C:あれ、おかしい。 C:間違がってる! T:えっ?違う?ペアで相談してください。 4 フェリーボートの「役目」と「造り」を表にまとめる。 T:表に入れてみて、気付いたことはありますか? C:客船の時と、同じ順番だ。 T:どうということ?ペアで話し合って。 C:どっちも、「役目」、「造り」、「働き」の順番に書いてある。	【ゆさぶり発問】 【追い読み、交代読み】 ・客船との違いが分かるように客船とフェリーボートの違うところにダウトを入れる。 ・前時で使用した表を使い、客船と同じ「役目」「造り」「働き」の順番で書かれていることに気付かせる。次時以降の構成の学習につなげることができるようにする。	フェリーボートについてまとめることができているか。 (ワークシート)  伝えたい

展開2 20分	5 客船とフェリーの同じところと違うところについて、表に線を引く。 T:同じところは赤い線、違うところは青い線を引きましょう。 C:フェリーは人も車も運ぶけど、客船は人しか運べないね。 C:船の中も違うところがあるね。 C:客室には食堂があるけど、フェリーにはないね。 6 ペアで同じところと、違うところを確認し、発表し全体で共有する。 T:みんなが線を引いたところをペアで見合ってみましょう。 C:全部同じところに線が引いてある! C:同じところもあるけど、ここは違う色で線が引かれている。	・単語単位の違いではなく、「やくめ」「つくり」「はたらき」の3点の相違点であることを理解させてから取り組ませる。 【視覚化】 ・同じところに赤い線、違うところに青い線を引く ・ペアで発表し合ったことを全体で共有し、足りないところは付け足しをさせる。 【共有化】 ▲客船とフェリーボートの文を隣同士で見比べられるように、客船の文を用意し、一文ずつ見比べることができるようにする。	 考えたい 本文を基にして、友達に説明することができているか。(観察)
まとめ 5分	7 本時を振り返り、学習したことをペアで伝え合い、次時の内容を知る。	・伝える役と、聞く役を列で指定し、役割を明確にする。	

6 板書計画

はたらき	つくり	やくめ	ふね
きやくしつでしよくどうて()をしたりします。	があります。	たぐさんの()をはこぶためのふねです。	 きやくせん
ふねに入れてから、きやくしつで休みます。	ておくところがありません。	たぐさんの人()をいっしょにはこぶためのふねです。	 フェリーボート

人は、車をふねに入れてから、きやくしつで休みます。

このふねの中には、きやくしつや車をとめておくところがあります。

フェリーボートは、たぐさんの人と同じく車をいっしょにはこぶためのふねです。

④フェリーボートはどんなことができるふねなのか 考えよう!

いろいろなふね

7 授業観察の視点

- (1) 本時のねらいが達成されていたか。そのための指導法が考えられていたか。
- (2) 児童が全力参加する姿が見られていたか。
- (3) 分かりやすく、考えを深めたり広げたりするために有効な発問であったか。